

# 得意不得意の差大きい発達障害



大里絢子准教授

先生は、発達障害に関する研究チームの一員として、精神科医や治療法士とともに調査や研究を行っています。

An illustration showing a woman with dark hair in a grey sweater and a young girl with a pink headband and a red bow in her hair, both in a kitchen. The woman is standing at a counter, focused on cutting green vegetables on a wooden cutting board. The girl is seated at the counter, looking up at the woman. In the background, there's a white cabinet and a small white chair. On the counter, there's a yellow pencil and a box of crayons.



特徴や傾向を分析するためには、これまで述べたように、

か、保護者がが発達障害についての理解をより深めることができまます。そのため、国から早期発見が求められていますが、特性が困っている状態かの判断が難しく、診断できる専門家も少ないため、早期に的確な発見が難しい状況でした。

このような課題を解決するために作成された支援ツールが「ハレ」です。

「発達障害」について  
て知ることはもちろん、  
発達障害の診断を  
障害は誰にとっても身  
近な存在です。

心にまつわるのさまざまなものと、人の行為や行動との関連をもとにした理論や、心の問題に対する感受性、悩める人に対するアドバイスなど、人に寄り添う姿勢を基盤として、蓄積したデータを基に発達障害を持つ方への適切な環境調整や関わり方を考えたり、発達障害の診断を受けた方やその親御さんなどの心理面に着目しながらサポート方法を探求したりしています。

の面白さに感動すること無くしてしまいます。また、これまでの記事のバリエーションばかりもご覧ください。左の二次元コードからどうぞ。次回の掲載は令和6年3月19日です。お楽しみに。

(担当・弘前大学研究機構・ライター・人文社会学部3年 和田 桜佳)

特性理解しサポート

探究心旺盛な小中高生の皆さんに向けて、弘前大学の先生たちのユニークな研究を紹介（*ADHD*）などがあ的には、自閉症スペクトラム障害（*ASD*）や注意欠如多動性障害（*ADHD*）などがあ

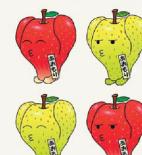
# ひろだい 探偵団

～あなたの“なぜ～？”を  
科学で解説します～

((28))

失くしたりしているのケースがありました。その様子を見た大里先生は、発達障害の特性に合った関わり方や環境調整の重要性を色々な人に知ってほしいと思いました。その後、弘前市で2013年に「歳児発達診療が始まり、これを健診では、アンケートや知能検査などから、発達障害の診断やら、発達障害の研究を始めました。大里先生は、検査内容の考案など、「立ち上げ時から関わっています。

# 青森県 子どもの発達支援 ガイドブック



発行：青森県発達障害者支援センター「ステップ」

弘前大学と青森県で監修し、大里先生が携わったガイドブック

受けている身近な「その人」がどのような個性を持つているのかを知りうるするよりも大切です。

れていなきことを一緒に調査したり探索したりして、特性がある人もない人も、ともに過ごすくなる方法を

得意があることを理解しているだけでも、見方や行動が変化し、誰かの過ごしやすさにつながることがあるの

## ■研究のたじでをこ経 介!



桜佳

※この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。令和6年2月12日 陸奥新報掲載